

「疫学者のための混合研究法」

日時：2023年2月1日(水) 13:00~15:45
会場：アクティシティ浜松 コンgressセンター 41会議室(学会総会B会場)
開催形態：現地会場(定員350人)+オンデマンド

■参加費：一般4,000円,学生1,000円

*疫学セミナーのみの参加も可能です。

■参加はこちらから→https://va.apollon.nta.co.jp/jea2023_registration/

座長

井上 真智子 先生 (浜松医科大学地域家庭医療学講座特任教授)



井上 真智子

講演1 「ヘルスリサーチにおける混合研究法の有用性」

抱井 尚子 先生 (青山学院大学国際政治経済学部国際コミュニケーション学科教授)

日本混合研究法学会初代理事長

主な著書：混合研究法入門：質と量による統合のアート. 医学書院, 2015.

抱井 尚子



講演2 「Mixed Methods Research (MMR) におけるクオリティ(質)の基準」(概要通訳あり)

ジョン・W・クレスウェル 先生 (ミシガン大学兼任教授、混合研究法プログラム)

国際混合研究法学会 (MMIRA) 創始者

主な著書：Designing and Conducting Mixed Methods Research. SAGE, 2018.

A Concise Introduction to Mixed Methods Research. SAGE, 2015.

30 Essential Skills for the Qualitative Researcher. SAGE, 2021.

廣瀬 真理子 先生 (関西学院大学)

主な著書：ジョン・W・クレスウェル著. 質的研究をはじめのための

30の基礎スキル：おさえておきたい実践の手引き. 新曜社, 2022. (翻訳)

ジョン・W・クレスウェル



廣瀬 真理子



実例紹介1 地域包括的緩和ケアに関する介入プログラムの効果

森田 達也 先生 (聖隷三方原病院副院長、緩和支援診療科)

Morita T, Miyashita M, Yamagishi A, et al. Effects of a programme of interventions on regional comprehensive palliative care for patients with cancer: a mixed-methods study.

Lancet Oncol. 2013 Jun;14(7):638-46. doi: 10.1016/S1470-2045(13)70127-X.の紹介

森田 達也



実例紹介2 アドバンス・ケア・プランニングのタイミングの認識

宮下 淳 先生 (福島県立医科大学白河総合診療アカデミー教授)

Miyashita, J., Kohno, A., Shimizu, S. et al. Healthcare Providers' Perceptions on the Timing of Initial Advance Care Planning Discussions in Japan: a Mixed-Methods Study.

J Gen Intern Med. 2021; 36, 2935-2942. <https://doi.org/10.1007/s11606-020-06524-4>の紹介

宮下 淳

